

令和4年度 学校評価総括表 伊丹市立西中学校

教育目標		あらゆることに活力にあふれた生徒の育成 ～自ら学び、考え、行動する生徒の育成～						
重点目標		(1)進んで学習に励む生徒の育成 (2)授業や行事、部活動に活力を持って主体的に取り組む生徒の育成 (3)将来の夢や目標を抱き、その実現に向けて挑戦する生徒の育成 (4)自尊感情と他者への思いやりの心を持つ生徒の育成 (5)規範意識や基本的生活習慣が身に付いた生徒の育成						
項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	基礎・基本の徹底と、授業改善	・基礎的、基本的な知識・技能を習得する。 ・授業力の向上と授業の改善をめざした校内研究会を実施する。 ・小中連携を進める。	・全教員が指導案を作成し、生徒が主体的に学ぶ場を設定した公開授業を行う。(話し合い活動やICT機器の活用を意識する。) ・全国学力学習状況調査の分析結果を各小学校に提供する。 ・学習の手引きを活用し、学期の始めに評価の方法を説明し、適切に評価を行う。 ・タブレットなど、ICT機器の研修を行い、授業においてICT機器の利用率を高める。 ・小テストやドリル学習などを繰り返し行い、基礎学力の定着に努めて、よりわかりやすい授業を展開する。 ・生徒によるふり返りを適宜行い、それを教師が確認し授業改善に生かす。	・わかりやすく工夫した授業を行う。 ・生徒アンケートにおいて「授業は、わかりやすく楽しい」と回答する割合を80%以上にする。 ・保護者・生徒アンケートにおいて「先生は事前に評価の仕方を説明し、学習の成果を適切に評価している」と回答する割合を85%以上にする。	B	・「わかりやすい授業に努めている」と回答した保護者の割合は 87 %と高率であるが、「授業は理解できて楽しい」と回答した1,2年生の生徒は 70 %しかおらず、生徒と保護者の間に差が生じている。しかし、3年生の生徒は85%のため、生徒と保護者の間に差がなくなっている。1,2年生と3年生で結果が異なる形になった。 ・今年度からシラバスの配布方法が変わったが、「適切に評価している」との回答が生徒も保護者も目標値を上回っており、シラバスを用いた効果が認められる。	・毎回の授業でめあてと振り返りを必ず行い、その後授業者から生徒の理解に応じてフィードバックを行う。 この一連の流れを通して達成感が得られる授業づくりをする。 ・今後もシラバスを活用し、学期の始めに評価の方法を説明し、適切に評価を行う。	・対面授業によるペア学習やグループ学習など、生徒同士の交流を取り入れた多様な授業形態が実施されている。 ・本年も、全教員が学習指導案を作成して授業改善に努め、公開の研究発表会や授業研究会を開催できた。その過程で、教師の指導力向上に尽力し、特に、ICT機器の活用と指導は積極的に充実していて、顕著な成果が認められる。 ・生徒の理解に応じてフィードバック、生徒一人一人と関わる様子がわかった。 ・指導案を作成する際に、「めあて」が具体的にイメージ出来ること、評価が見える形にすることを心がける。 ・「わかりやすい」ことと「楽しい」こととの関連を突き詰めるために、別々の質問にした方が良いのでは。 ・教師も一生懸命だけでなく、楽しんで授業出来ているか、も大切なのでは。 ・タブレットの操作の個々の技量の差をどのように埋めるかが課題。 ・「授業は理解できて楽しい」が70 %と低いので、シラバスの活用を見直すべきでは。 ・学年による生徒の授業態度に若干、差異がある。左記の70%と関連する可能性がある。 ・「達成目標」、「成果と課題」等に小中連携の項目が必要なのでは。
	思考力・判断力・表現力の育成	・思考力、判断力、表現力を育てる授業を展開する。 ・読書活動を充実させ、語彙力の獲得を図る。 ・生徒、教職員ともに表現力を伸ばす。	・タブレットやスクールタクトなどを活用して、授業のICT化と表現活動を行う。 ・コグトレを週に1回導入し、集中力や認知力の向上を目指す。 ・1分間スピーチの発表会を学年を越えて実施する。 ・司書教諭と専門委員会の連携を図り、本に関心を持つ働きかけを行う。	・「学校は様々な場面(授業・行事・委員会活動など)で表現力を高める取り組みを行っている」における評価を90パーセント以上に維持する。 ・教員、生徒共にコグトレの意義を周知する。 ・各クラス月間60冊以上の読書量を目指す。	B	・「学校は様々な場面(授業・行事・委員会活動など)で表現力を高める取り組みを行っている」における評価は90パーセントを概ね達成した。 ・教員、生徒共にコグトレの意義を確認し、継続して取り組めた。 ・読書量は一部のクラスで60冊に到達することができなかった。	・「学校は様々な場面(授業・行事・委員会活動など)で表現力を高める取り組みを行っている」における評価が90パーセント以上になるよう、活動内容を学年通信で周知する。 ・年度当初にコグトレに関する研修を行う。 ・読書量調査のデジタル化を行う。	・本校生徒の基礎学力は十分備わっているが、自主的な発表力や豊かな表現力については課題がある。それは、生徒の質問紙調査の結果にも表れているが、自分で考えることやうまく伝えること等に達成度が低い。そのため、学校として、現状把握と実態分析して、すべての教育活動で取り組もうとする姿勢が認められる。 ・様々な場面で表現力を高める取り組みは素晴らしい。 ・読書量とともに質的に高める取り組みを進める必要がある。 ・読書量の目標を学年ごとに定めてはどうか。 ・図書室で様々な分野の図書に触れる機会を設ける工夫がなされている。 ・「機会作り」は出来ているが、生徒達の積極性につながっていない。 ・様々な教科で、図書室に足を運ぶ取り組みをする。 ・コグトレがよくわからないので、保護者にもっと周知してみては。
	学習意欲の向上	・授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。 ・家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。	・シラバスを利用し、見通しを持って学習に取り組むように指導する。 ・宿題を通して、家庭学習をする習慣を身につけさせる。 ・家庭でのタブレットやスマートフォンの使用においてはモラルやルールを守り、節度をもって使用するように指導する。 ・目標やねらいを明確にし、振り返り活動を取り入れた授業に努める。 ・週末課題を毎週設定する。未提出者には学習優先に参加し、課題に粘り強く取り組むように促す。 ・タブレット端末を活用した活動を積極的に授業に取り入れる。 ・懇談等で直接保護者へ家庭内でのルール設定をお願いするなど啓発に取り組む。	・「授業では学習内容が理解できて楽しい。」の項目において回答した割合が80%以上になる。 ・「先生は分かりやすくするために教え方を工夫している。」の項目において回答した割合が90%以上になる。 ・「家庭で勉強する習慣がある。」の項目において回答した割合が80%以上になる。 ・「携帯・スマートフォン等の使用について親子で約束を決めて与えている。」の項目において「はい」と答えた割合が80%以上になる。	A	・「授業では学習内容が理解できて楽しい。」の項目において回答した割合が75%で目標から5%届かなかった。 ・「先生は分かりやすくするために教え方を工夫している。」の項目において回答した割合が96%で目標数値を大きく上回ることができた。 ・「家庭で勉強する習慣がある。」の項目において回答した割合が80%で目標数値に届くことができた。 ・「携帯・スマートフォン等の使用について親子で約束を決めて与えている。」の項目において「はい」と答えた割合が100%ということで目標達成することができた。今年度設定した目標は概ね達成することができた。Q17「先生は分かりやすくするために教え方を工夫している。」の項目において回答した割合が96%も達成できていた一方で、質問項目Q4「授業では尋ねてみたいことを気軽に、先生に質問しやすい。」において、あてはまると答えた生徒が66%。質問項目Q6「自分は、授業で積極的に発表しようとしている。」において、あてはまると答えた生徒は49%と大きく下回る結果となった。アンケート結果より教師の学習のサポート体制に好感を持つものが多いことが分かったが、その環境の中、自ら質問したり、発表したりする生徒が少ないことが浮き彫りになった。	・新たにアンケート項目を追加し、積極的に質問したり発表したりすることができない理由に迫る質問を設定する。 ・教師側の問題点の洗い出しとして、授業内の振り返りの活動に自由に質問ができる時間を用意するなどして原因究明に努める必要がある。	・全体としては、共感や信頼のある人間関係が培われていて、豊かな教育活動が認められる。授業のことや学び方に関して、ほとんどの内容(項目)において、十分達成して成果が認められる。ただ、「自分は積極的に発表しようとしている」ところに課題が認められる。引き続き、様々な教育場で積極的に発表できること、その姿勢を育む指導に努める必要がある。 ・自己評価がAでも、善策を考え、より高みを目指した学習意欲の向上に努める姿勢がわかった。 ・学習意欲の向上に対する取り組みは、素晴らしいので今後も継続すべき。 ・教師と生徒の距離を埋める取り組みが必要なのではないか。 ・シラバスの効果は出ている。 ・生徒の積極性を向上させる取り組みが必要。 ・情報モラルの観点から、近年問題になっているSNS動画の件等を「他山の石」と思わず、「いたずら」「炎上」の先にあるもの、「先を見る目」を養うような取り組みが必要。 ・生徒に「今」と「これから」を考える力を育む。 ・社会の変化に対応できる力の育成。 ・思いついた意見を言うのが苦手な生徒は、あらかじめ書き留めたものを発表できるような工夫がある方が良い。

令和4年度 学校評価総括表 伊丹市立西中学校

教育目標		あらゆることに活力にあふれた生徒の育成 ～自ら学び、考え、行動する生徒の育成～						
重点目標		(1)進んで学習に励む生徒の育成 (2)授業や行事、部活動に活力を持って主体的に取り組む生徒の育成 (3)将来の夢や目標を抱き、その実現に向けて挑戦する生徒の育成 (4)自尊感情と他者への思いやりの心を持つ生徒の育成 (5)規範意識や基本的生活習慣が身に付いた生徒の育成						
項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
豊かな心・健やかな体	自尊感情の育成	・生徒との信頼関係を構築する。 ・生徒が充実感を得られる充実した学級経営を実践する。 ・基本的生活習慣を確率させる。 ・規範意識の向上を目指した指導を実践する。	・生徒の情報交換を職員朝礼だけでなく、日常的に行うようこころがけ、日々の生徒指導に生かす。 ・Q-Uを実施し、その結果をもとに具体的対応を考え、学級経営に生かす。 ・きょうだい学級間での合唱練習や生徒会活動、1分間スピーチなどを通して、生徒が自信をもてるようにする。 ・小中連携の研修などで、児童生徒の情報について共有する。 ・教育相談週間を引き続きもうけ、生徒の実態把握を行う。	・生徒アンケートにおいて、「自分に自信を持って行動できることがある。他の人を思いやる気持ちになれる」について、85%以上を維持する。 ・保護者アンケートにおいて「子どもが自信をもって生活している。他の人を思いやることができる」について85%以上を維持する。 ・生徒アンケートにおいて、「夢や将来したいことやつきたい職業がある」について、75%を上回る。	B	・生徒アンケート「自分に自信を持って行動できることがある。ほかの人を思いやる気持ちになれる」について、88%に達している。 ・保護者アンケート「子供が自信をもって生活している。ほかの人を思いやるができる」について、87%に達している。 ・生徒アンケート「夢や将来したいことやつきたい職業がある」については1年生61%、2年生67%、3年生70%、平均65%となった。	・知識的な進路指導やキャリア教育だけでなく、働くことの意義について考えられるような取り組みを行う。 ・夢をもつことの大切さや、仕事のやりがいについて伝えられるような講演会は現在年間2回程度行っている。今後も継続して行っていく。また、保護者アンケートでは「学校からの進路についての情報発信は十分である」という認識を得ている(90%)が、一方で生徒アンケートでは「先生に進路のことについて相談できる」と答えた割合は他項と比べて低かった(76%)。このことから、教師側より進路関係の相談にのることができ、と発信すべきと考える。 ・家庭においての手伝いについても、その関わりの低さがうかがえる。各家庭においては状況も異なるため一概には言えないが、学級懇談や学級通信、学校便り等で啓発してもいいのではないかと考える。	生徒の自尊感情を育むための、確実な指導力や積極的な活動(施策)が整っていて、その成果が認められる。ただ、調査から「家庭での仕事(役割)」や「夢や将来活動」及び「就きたい職業」に関しては、不足や不確定な部分が見受けられる。しかし、日々の学校生活では、着実に自尊感情は育まれている。 ・自尊感情の育成について、具体的な取り組み案を創造しなければならない。 ・自尊感情の向上に対する取り組みは、素晴らしいので今後も継続すべき。 ・新年度からは、学級懇談が可能なら開催し、そこでの情報交換も改善策のヒントとなるのでは。 ・「夢」と「生きる」と言うことを伝え続けてほしい。 ・大人になることへの希望を持たせることが必要なのでは。
	生徒指導	・いじめ問題への対応力の向上に取り組む。 ・不登校長欠生徒に対して、登校刺激を与えることができるように組織的に対応を行う。 ・校則や生徒指導の在り方を見直す。	・毎学期、教育相談週間を設け、生徒の声に耳を傾けたり、学校生活アンケート、いじめ調査アンケートを行ったりして、早期発見ができるように実態把握を行う。 ・いじめ問題に関する道徳教材を使い、未然防止ができるようにいじめ問題について深く考える時間をもつ。 ・報告、連絡、相談体制を確立し、早期対応ができるように組織的に動く。 ・生徒指導委員会(週に1回)やいじめ防止対策委員会(学期に1回)や不登校対策委員会(月に1回)を必ず実施し、情報共有を行う。 ・校則改定委員会を実施し、生徒会と連携して見直しの方向性について議論し、必要に応じてアンケート調査を行う。	・「先生は悩みや不安なことについて相談にのってくれる」という生徒の割合を85%以上にする。 ・「自分を大切にすることや、他の人への思いやり、いじめを許さないことについて教えてもらっている」という生徒の割合を85%以上にする。 ・「学校へ行くのが楽しい」という生徒の割合を85%以上にする。 ・「子どもは楽しく学校に行っている」という保護者の割合を85%以上にする。	A	・「先生は悩みや不安なことについて相談にのってくれる」という生徒の割合が86%となり、若干ではあるが目標を上回った。 ・「自分を大切にすることや、他の人への思いやり、いじめを許さないことについて教えてもらっている」という生徒の割合が97%となり、大きく目標を上回った。 ・「学校へ行くのが楽しい」という生徒の割合が87%となり、若干ではあるが目標を上回った。 ・「子どもは楽しく学校に行っている」という保護者の割合が87%となり、若干ではあるが目標を上回った。 以上の結果より、一定の指導の効果を得ることができた。取り組みが形骸化しないように毎年の見直しをきちんと行い、定着を図る必要がある。	・職員間で報告、連絡、相談体制を強化し、SSWやSCだけでなく、外部の関係機関とも連携して生徒一人ひとりの対応について考えていく。 ・学校生活アンケート、いじめ調査アンケートを行ったらすぐに聞き取りを行い、早期発見、早期対応ができるように迅速に行動を行う。 ・毎週の生徒指導委員会や毎月の不登校対策委員会、毎学期のいじめ防止対策委員会で情報交換を密に行い、未然防止、早期発見、早期対応を丁寧に行えるようにしていく。 ・生徒会と連携し、日々の学校生活において生徒主体の活動が行えるようにする。	学校及び教師の、生徒の状態を把握し正確に見ようとする姿勢は立派で、生徒の考え方や学ぶ意欲の向上、学校生活の楽しさ等を育んでいる。それは、例えば校則の改定で、生徒と教師と保護者などで協議できる場面設定が構築でき、日常的に生徒一人一人を大切にしている取り組みからも確認される。 ・不登校生の保護者の情報交換の場、相談窓口がどの程度あるのか。
	体力の向上	・自ら進んで体力を向上させようとする生徒を育てる。 ・保健管理や啓発による丈夫な体づくりを行う。 ・校内の事故防止に努める。 ・食に関する指導に取り組む。	・保健だよりを活用し、健康の保持増進に関心を持たせる。 ・委員会活動等を活用し、規則正しい生活についての啓発を行う。 ・保健体育の授業で毎時間補強運動、柔軟を実施し、体力の向上と怪我防止につなげる。 ・スポーツテスト、タイムトライアルの成績上位者の掲示を行い、意欲向上につなげる。 ・コロナウイルス感染症予防について常に声かけをし、生徒が自ら必要に応じて判断をできるようにする。 ・生徒自身が熱中症や対策方法について知識を身につけ、自分自身で具体的な対策ができるようにする。	・保護者の「早寝早起き朝食を摂るなど規則正しい生活を心がける」の評価を90%以上にする。 ・保護者における保健だよりの認識を90%以上に維持する。 ・生徒の「早寝早起き朝ご飯、規則正しい生活を心がける」の割合を90%以上にする。 ・生徒における保健だよりの認識を90%以上に維持する。 ・スポーツテストの伊丹市の目標指数を昨年より更に上回るために体育の授業や課題活動を計画的に進める。 ・コロナウイルス感染症における正しい感染対策を理解し、自主的に実施することができる。 ・熱中症について授業で取り上げる。	B	・保護者の「早寝早起き朝食を摂るなどの規則正しい生活を心がける」の評価は78%にとどまった。学年が上がっていくにつれて下がる傾向があるため、継続して指導する必要がある。今年度1年生で実施した食育講演会を3学年でできるか検討したい。 ・保健だよりの認識は保護者、生徒ともに90%以上になった。 ・スポーツテストの結果が思わしくなかったため、来年度に向けて新しいトレーニングを継続して実施中。 ・感染症対策、熱中症対策の両方について授業で取り上げ、意識を高めることができた。	・学年があがるにつれて下がる傾向があるので、3年間継続して指導する必要がある。また、今年度1年生で実施した食育講演会を3学年で実施できないか検討したい。 ・90%以上を維持できるようこのまま続けていく。 ・現1年生で、毎回の授業(場所によって変更)で腹筋30秒間、反復横跳びを実施している。来年度の結果を見て内容を再考していく。 ・自身でできる対策について考える機会を与えたことで生徒の意識は高まり、熱中症の症状を訴える生徒は例年より少なかった。継続していく。	・全体として、ほとんどの生徒は、基本的生活習慣が良好で健全な育成が認められる。 ・一部の生徒に、生活習慣に課題があることも概観されるので、現在、取り組んでいる体力向上の活動や生徒主体で学ぶ楽しさが存在する指導の充実を期待する。 ・改善案の取り組みを継続すべき。 ・目に見える具体的なチャレンジ項目を設定し継続すべき。 ・食育の取り組みを保護者にも伝え、家庭との連携をはかるべき。 ・トライやる・ウィークによって子どもの成長を実感する保護者が多いので、トライやる・ウィークが実施できたのがよかった。 ・生活のリズムを正しく維持するような取り組みを進めるべき。 ・食育講演会の動画を、生徒・保護者に一定期間配信するような取り組みが出来ないか。 ・「早寝」「早起き」「食事」「体力」等の項目は、家庭の役割が大きい。実態を各家庭に伝え、改善を呼びかけることが必要。

令和4年度 学校評価総括表 伊丹市立西中学校

教育目標		あらゆることに活力にあふれた生徒の育成 ～自ら学び、考え、行動する生徒の育成～						
重点目標		(1)進んで学習に励む生徒の育成 (2)授業や行事、部活動に活力を持って主体的に取り組む生徒の育成 (3)将来の夢や目標を抱き、その実現に向けて挑戦する生徒の育成 (4)自尊感情と他者への思いやりの心を持つ生徒の育成 (5)規範意識や基本的生活習慣が身に付いた生徒の育成						
項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	・積極的に学校情報を発信する。 ・PTA活動と協力して取り組む。 ・信頼感の醸成を基盤とした家庭・地域と連携をすすめる。	・学校だより、学年だよりの発行やホームページの更新を積極的に行う。 ・コロナ禍でも、感染症対策を行い、オープンスクールを可能な限り実施する。また、学校補導連絡会開催時には、地域で健全育成に関わる方々の授業参観を行う。 ・進路に関する情報を適宜発信していく。 ・ホームページや学校だより、学年だよりなどの内容をより魅力的なものにする。 ・地域の方に土曜学習や放課後学習などへの協力者登録を進める。 ・緊急時の連絡をホームページとGoogle Classroomを使って発信する。	・情報発信を継続する。学校通信や学年通信などをよく読んでいる家庭90%以上、時々ホームページにアクセスする家庭60%以上を目標にする。 ・地域と学校との間で双方向の活動が行われている状況を継続する。 ・Google Mail の登録者数を増やす。	B	・ホームページの閲覧数は年々減少しているが、学校通信や学年通信をよく読んでいる家庭は77.8%から84%に上がった。 ・コロナ禍、感染症対策を行いながらオープンスクールを実施し、体育大会や文化祭にも保護者に来校してもらうことができた。 ・教職員とPTA役員とのより良い関係作りに努めた。 ・感染症対策を行いながら、全学年の保護者を対象に進路説明会を学校で行うことができた。 ・地域の方に、土曜学習や放課後学習、トライやる・ウィークなどで協力していただいた。 ・様々な連絡をGoogle form や Google Classroomを使って配信した。 ・Google mail の登録者数は半分以下である。	・「学校のホームページを見ている。」の項目を検討し、「Google classroomやGoogle formを確認している。」という項目を加える。 ・年度初めに、メール登録の機会を設け、一斉にお試しメールを配信し、使用を促す。	情報発信として、学校・学年・学級などの通信を発行する丁寧な情報提供は立派である。ただ、発信するだけで満足したり情報をたくさん提供して達成感を感じたりすることではなく、発信する内容や表現及びその的確性について、繰り返し厳しくチェックする必要がある。そして、情報内容や発信の意味及びその意義の再検討に尽力されることを期待する。 ・ホームページの更新をこまめにし、直近の情報がわかるようにすべき。 ・コロナ禍で学校と関わる時間が少なくなっており、評価しづらい部分がある。 ・紙媒体での情報発信も大切、印刷された文字や写真の方が心証に残りやすいこともあるのでそちらも大切にしてほしい。 ・学校、PTAともにもっと情報発信をするべき。 ・「西中ブランド」をもっと積極的に情報発信するべき。 ・コロナ禍でも出来ることを探り続け「子どもたちのため」を第一に考え取り組んでいる。 ・ホームページのレイアウトは改善の余地がある。項目がわかりにくい。
次年度に向けた重点的な改善点 精力的に工夫や努力する学校運営が認められ、その成果が顕著である。この数年、教職員の生徒を育む前向きな姿勢や努力が見られ、学校づくりが的確で教育体制が確立し、学校運営に成果として現れている。しかし、構造や制度は、日々の刷新や改革、精選や創造などと、新たな指導体制や指導方法を取り入れる必要がある。 今後は、一層の新たな学校作りに取組み、生徒の深い思考とユニークな創造力、及び確かな表現力を備えた活動的な生徒育成が求められる。引き続き、日々の授業作りや授業改善など毎時の実践の充実から求める生徒の育成まで、長期的な展望を掲げつつ、具現化した学校運営の推進が必要と思われる。								

自己評価の基準 A:目標を上回った B:目標どおりに達成できた C:目標をやや下回った D:目標を大きく下回った